

障害児調査票(チェックシート)

子ども発達センター

この調査は、通所支援事業所において、お子様にとって必要な支援の量を把握し、適切な支援を行うために実施するものです。
各設問の当てはまるもの1つに○印を付けてください。

御記入後、市への提出及びこの用紙をコピーしたものを利用事業所と共有してください。

フリガナ 児童氏名		記入日	令和	年	月	日
受給者証番号		生年月日	平成 令和	年	月 (日 歳)

領 域	項 目	判断項目				
1 健康・生活	(1) 食事	① 一人で食べることができる	② 見守りや声かけがあれば食べることができる	③ 一部支援が必要である	④ 常に支援が必要である	
	(2) 排せつ	① 一人でトイレに移動して排せつすることができる	② 見守りや声かけがあればトイレに移動して排せつすることができる	③ 一部支援が必要である	④ 常に支援が必要である	
	(3) 入浴	① 一人で入浴することができる	② 見守りや声かけがあれば入浴することができる	③ 一部支援が必要である	④ 常に支援が必要である	
	(4) 衣類の着脱	① 一人で衣類の着脱ができる	② 見守りや声かけがあれば衣類の着脱ができる	③ 一部支援が必要である	④ 常に支援が必要である	
2 感覚・運動	(5) 感覚器官(聞こえ)	① 特に問題がなく聞こえる	② 補聴器などの補助装具があれば聞こえる	③ 聞き取りにくい音がある/過敏等で補助装具が必要である	④ 音や声を聞き取ることが難しい	
	(6) 感覚器官(口腔機能)	① 嚥んで飲み込むことができる	② 柔らかい食べ物を押しつぶして食べることができる	③ 介助があれば口を開き、口を閉じて飲み込むことができる	④ 哺乳瓶などを使用している/口から食べることが難しい	
	(7) 姿勢の保持(座る)	① 一人で座り、手を使って遊ぶことができる	② 手で支えて座ることができる	③ 身体の一部を支えると座ることができる	④ 座るために全身を支える必要がある	
	(8) 運動の基本技能(目と足の協応)	① ケンケンが3回以上できる	② 交互に足を出して階段を昇り・降りできる	③ 両足同時にジャンプし、転倒せずに着地できる	④ 階段は同じ足を先に出して昇る	⑤ どの動きも難しい
	(9) 運動の基本的技能(移動)	① 一人で歩くことができる	② 一人で歩くことはできるが近くでの見守りが必要である	③ 一人で歩くことができるが、手をつなぐなどのサポートや杖・保護帽などの補助具が必要	④ 一人で歩くことが難しい	
3 認知・行動	(10) 危険回避行動	① 自発的に危険を回避することができる	② 声かけ等があれば危機を回避することができる	③ 危険を回避するためには、支援者の介入が必要である		
	(11) 注意力	① 集中して取り組むことができる	② 部分的に集中して取り組むことができる	③ 集中して取り組むことが難しい		
	(12) 見通し(予測理解)	① 見通しを立てて行動することができる	② 声かけがあれば見通しを立てて行動することができる	③ 視覚的な情報があれば行動することができる	④ その他の工夫が必要	
	(13) 見通し(急な変化対応)	① 急な予定変更でも問題ない	② 声かけがあれば対応できる	③ 視覚的な手掛かりがあれば対応できる	④ その他の工夫やサポートが必要	
	(14) その他	① 乱暴な言動はほとんどみられない	② 乱暴な言動がみられるが、対処方法がある	③ 乱暴な言動がみられ、対処方法も特にない		
4 ケ 言 語 シ ・ コ ミ ユ ニ	(15) 2項関係(人対人)	① 目が合い、微笑むことや、嬉しそうな表情をみせる	② 訴えている(要求する)時は目が合う	③ あまり目が合わない/合っても持続しない	④ ほとんど目が合わない	
	(16) 表出(意思の表出)	① 言葉を使って伝えることができる	② 身振りで伝えることができる	③ 泣いたり怒ったりして伝える	④ 意思表示が難しい	
	(17) 読み書き	① 支援が不要	② 支援が必要な場合がある	③ 常に支援が必要		
5 人 間 関 係 ・ 社 会 性	(18) 人との関わり(他者への関心興味)	① 自分から働きかけたり、相手からの働きかけに反応する	② ごく限られた人であれば反応する	③ 自分から働きかけることはほとんどないが、相手からの働きかけには反応することもある	④ 過剰に反応する、または全く反応しない	
	(19) 遊びや活動(トラブル頻度)	① ほとんどないか、あっても自分たちで解決できる	② トラブルがあっても、大人の支援があれば解決できる	③ 支援があっても、解決できる場面とできない場面がある	④ トラブルが頻繁に起き、解決することも難しい	
	(20) 集団への参加(集団参加状況)	① 指示やルールを理解して最初から最後まで参加できる	② 興味がある内容であれば部分的に参加できる	③ 支援があればその場にはいられる	④ 参加することが難しい	
6 コ ミ ユ ニ ケー シ ョ ン	(21) コミュニケーション(言葉遣い)	① 適切な言葉遣いや態度で表現することができる	② 時折、適切な言葉遣いや態度で表現することができる	③ ほとんど適切な言葉遣いや態度で表現することが難しい	④ 適切な言葉遣いや態度で表現することが難しい	
	(22) コミュニケーション(やり取り)	① やり取りをすることができる	② 配慮があればやり取りができる／やり取りをしようとする	③ やり取りをするのが難しい		
	(23) コミュニケーション(集団適応力)	① 参加することができる	② たまに参加することができる	③ ほとんど参加することがない	④ 参加することが難しい	

裏面に続く

小学生以上は、各設問の当てはまるもの1つに○印をつけてください。(未就学児は下記設問の回答不要)

調査項目		回答		
1	コミュニケーション	支援不要 日常生活における口頭での自分の意思の伝達に支障がない。	支援が必要な場合がある 慣れていない場面等では、口頭でのコミュニケーションが難しく配慮を必要とする。	常に支援が必要 コミュニケーションツール等を用いても、自分の意思の伝達ができない。
2	説明の理解	支援不要 簡単な口頭での説明を概ね理解し、うなづく等、説明に伴った行動ができる。	支援が必要な場合がある 簡単な口頭の指示でも理解できず、説明に応じた行動ができないことが多い。	常に支援が必要 簡単な口頭の説明も理解が難しい。理解できているか判断できない。
3	大声・奇声を出す 例:周囲が驚いたり、他者に迷惑となるような大声や奇声を出す。物などを使って周囲に不快な音を立てる。	なし	週1回以上	ほぼ毎日
4	異食行動 例:食べられないものを口に入れたり、飲み込んだりする。異食行動を未然に防ぐため、異食しそうなものを周囲に置かないなどの配慮が必要。	なし	週1回以上	ほぼ毎日
5	多動・行動停止 例:特定の物や人に対する興味関心が強く、思いどおりにならないと多動になったり、動かなくなったりする。	なし	週1回以上	ほぼ毎日
6	不安定な行動 例:予定や慣れている支援者や状況が変わることが受け入れられず、パニック状態になる。不安、恐怖等にかかれて衝動的な行動をする。	なし	週1回以上	ほぼ毎日
7	自らを傷つける行為 例:自分を叩く。頭を床や壁に打ち付ける。頭髪を抜く。傷口を触ったり、ほじったりして治らない。衣服を破る。	なし	週1回以上	ほぼ毎日
8	他人を傷つける行為 例:他人を叩く。髪の毛を引っ張る。蹴る。物を壊す等、他人を傷つける可能性がある。暴言等により、他人を心理的に傷つける。	なし	週1回以上	ほぼ毎日
9	不適切な行為 例:興味や関心が優先し、適切な意思表示ができなかったり、判断能力が不十分だったりする。急に人に抱き付く。断りなく物を持ってきてしまう。	なし	週1回以上	ほぼ毎日
10	突発的な行動 例:関心が強い物や人を見つけたら、突然そちらへ走っていってしまう。危険認識が弱く、道路に飛び出したり、熱いものなどに手を出したりしてしまう。	なし	週1回以上	ほぼ毎日
11	過食・反すう等 例:過食、拒食がある。極度の偏食(特定の物しか食べない等)があり、配慮をしている。	なし	週1回以上	ほぼ毎日
12	てんかん	なし	経過観察あり 服薬はしていないが、経過観察を行っている。	診断あり 服薬で発作を予防している
13	そううつ状態 例:前後の脈絡なく、急に泣いたり、笑ったりする。過度な興奮状態。怒りやすい。	なし	週1回以上	ほぼ毎日
14	反復的行動 例:特定の行為を繰り返す。予定や物の置く位置などが変わると混乱し元に戻すよう求める。くるくる回るもの等に集中し動けなくなることがある。	なし	週1回以上	ほぼ毎日
15	対人面の不安緊張・集団への不適応 例:人に会うと緊張する、強い不安が生じるため、外出等が出来ない。社会への参加を拒否する、その場にいても一緒に行動できない。	なし	週1回以上	ほぼ毎日
16	読み書き	支援不要 支援がなくても文字の読み書き及び意味の理解ができる。	支援が必要な場合がある 文字の読み書き及び意味の理解の一部を自分で行えないため部分的に支援が必要。	常に支援が必要 文字の読み書き及び意味の理解に関して全面的に支援が必要。

※宇都宮市記入欄（個別Ⅰ 重度）
☐ (1)～(3)⑨, ④が 3以上

※宇都宮市記入欄（個別Ⅰ）
☐ 13以上（ ）